



読書があたえてくれるもの

校長 有村 哲郎

11月に入っても日中は暑い日が続いていました。ようやく暦にあった気温になってきました。日の入りも日々早くなるなど、秋を感じるとともに冬の到来を感じさせ、一気に季節が移り変わろうとしています。

さて、「〇〇の秋」と言えば、「スポーツの秋」「収穫の秋」「食欲の秋」など、いくつかの言葉が思い浮かびますが、秋の夜長を読書に没頭できる時期「読書の秋」にできたらと思います。



そこで、読書の効用について紹介したいと思います。

- 1 「より賢くなれる。」 ネット情報のように断片的な知識でなく、読書は著者の考え方を知ることが出来ます。「ネットは情報を得、読書は知識を得る。」
- 2 「ストレスを軽減できる。」 読書によるストレス軽減をねらう上で大切なのは、読書に没頭し現実を忘れることです。興味を持ち没頭できるのなら、恋愛物、ミステリー、ライトノベル、ノンフィクション等ジャンルは問いません。
- 3 「心を穏やかにしてくれる。」 読書は心を落ち着かせます。毎日の読書によって日々、平穩に過ごすことができ、心配事や心が浮つくことが驚くほどなくなります。
- 4 「論理的思考を高めてくれる。」 読書によって一般的知識が向上するのみならず、分析的思考が高まることが明らかになっています。パターンを把握するスピードが高まり、分析スキルが向上します。
- 5 「語彙が増える。」 日常生活ではあまり、見聞きしない言葉も、読むことを通じて目に入ってきます。成功している作家は「ライターは文章をうまく書くために、読む必要がある。」とっています。
- 6 「書く能力が向上する。」 論理的思考力が高まり、語彙が増えれば、必然的に書く能力も向上します。

読書の効能をいくつか述べましたが、ノーベル賞を受賞した、東工大名誉教授の大隅良典さんが  学者を目指すきっかけとなったのは、小学生の頃兄に贈られた1本のロウソクを題材にした科学の面白さを伝える本、「ロウソクの科学」(マイケル・ファラデー著 角川文庫)だったとおっしゃっています。本校図書室での貸し出しを利用している生徒もいる一方で、ほとんど利用していない生徒や新聞・本をほとんど読まないという生徒もいます。本校では、12月2日から12月20日を「ウィンター読書月間」として様々な取組を行う予定にしています。毎日あわただしく生活している人も多いと思います。限られた時間を有効に活用し、この秋、家族の皆さんで読書をしてみませんか。そして、読書を習慣化してみませんか。1冊手に取り、秋の夜長、メディアから離れて読書に親しんでは如何でしょうか？

『灯下(とうか)親しむべし』(涼しく夜の長い秋は、灯下の下での読書に最適)

環境整備

保護者がお勤めのNEXCO西日本様のCSR活動により、体育館の壁の洗浄と、樹木の伐採をしていただきました。校内の環境整備をしていただき、ありがとうございました。



校外学習(11/12)

1年生は空港とその周辺の施設で、2年生は平和学習の一環で霧島市~始良市にある戦跡を巡る活動を行いました。それぞれに学習を深めることができました。



生徒会引き継ぎ・任命式(11/11)

生徒会選挙で選出された新役員に任命書が授与され、いよいよ後期生徒会がスタートしました。みんなで協力し、充実した活動にしたいです。



ノート寄贈(11/18)

溝辺出身の方で、現在東京にお住まいの横山綾乃様から生徒一人一人にノートの寄贈がありました。

中学生まで溝辺で過ごした恩返しをしたいとのことで、溝辺の各学校へ寄贈されているそうです。生徒には、各学級で配布しました。様々な方に支えられていることを実感しました。

陵南中HP(ブログ) 随時更新中です。ぜひ御覧ください。

12月の主な行事

- 4日~10日 人権週間
- 6日 1・2年授業参観・PTA/学校保健委員会
- 14日 人権講話 15日 門松づくり(PTA施設部3年・総務部)
- 20日 生き方講話(創立70周年講演会) 24日 終業式